

平成28年度 中部森林技術交流発表会 応募発表課題一覧表

第1日目 (1月31日)

発表部門	番号	課題名	所属	発表概要	開始時刻	
森林技術	1	更新コスト削減による無地拵地の経過について	北信森林管理署	平成27年度伐採・造林一貫作業箇所において更新コスト削減のための無地拵植付を実施した。その後の下層植生及び植栽木の生育状況等について途中経過を報告する。	10:45	
	2	スマート林業におけるドローンレーザーによる単木把握	中信森林管理署 信州大学 農学部	生産請負箇所において、UAVドローンによりレーザー測量を実施し、現地の収穫調査との比較検証を行った。	11:00	
	3	航空レーザー計測データを活用した収穫調査への適用性の検討について	東信森林管理署 朝日航洋(株)	近年、森林情報解析への航空レーザー計測が普及しつつあることから、効率的な収穫調査の実用化に向け、収穫調査への航空レーザー計測データの活用とその有効性について検証した。	11:15	
	4	伐採跡地におけるヒノキ天然更新過程	木曽森林管理署	木曽ヒノキの天然更新について、現在の林分の状況から伐採跡の更新課程を推測、また、実生の状況から更新に有利な条件を判断する。	11:30	
	5	伊那谷総合治山事業所における安全対策(安全協議会との相互連携)	伊那谷総合治山事業所 (株)内山組 (飯田地区治山事業安全協議会)	災害の未然防止及び安全意識の高揚を図るため、各地区の受注者が安全協議会を組織し、発注者並びに労働基準監督署と連携して安全活動を展開していることの好事例報告。	11:45	
	休憩 (12:00~13:00)					
	6	御嶽山噴火災害からの経過と対応	木曽森林管理署	平成26年9月27日の御嶽山噴火災害について、関係機関との情報交換、二次災害防止対策等の連携が円滑に図れたことから、その内容について報告する。	13:00	
	7	治山事業による濁水発生低減効果について ～板取川地区民有林直轄治山事業地(海ノ溝谷)においての中間報告～	岐阜森林管理署 (株)中部森林技術 コンサルタンツ	板取川地区民有林直轄治山事業地において平成19年より濁度観測調査を行っており、その結果から濁度発生状況を解析して治山事業の濁水に対する効果について発表する。	13:15	
	8	大転石を利用した治山ダムの取組	富山森林管理署	常願寺地区民有林直轄治山事業地における新たな工法として、大転石を利用した治山ダムについてコストや品質等についての検討を行った。	13:30	
	9	造林コスト低減に向けた取組について	愛知森林管理事務所	育林経費の大半を占める造林初期におけるコストの低減を図るため、コンテナ苗活着試験、天然更新試験地の検証、ニホンジカ被害防止対策等の低コスト造林への取組について報告する。	13:45	
	10	ヒノキ・ケヤキ混交林におけるケヤキの生長	飛騨森林管理署	明治43年に植栽されたヒノキとケヤキの混交林が飛騨署宮国有林にあり、過去複数回にわたり調査が行われており、今回、標準地調査を行い過去のデータと比較した。	14:00	
	11	多様な森林づくり施策について －ヒノキ人工林除伐省略試験の事例－	森林技術・支援センター	植栽後10年を経過したヒノキ単層林において、部分的に除伐を行わないことにより侵入広葉樹を保全し森林の多様性を高める試験の経過報告を行う。	14:15	
12	ケーススタディ地区を活動のテーマパークに ～民国が連携した活動を集中的に実施～	岐阜森林管理署	岐阜県七宗町をケーススタディ地区に設定。民国連携した木材生産、ニホンジカ対策、市町村森林整備計画の助言指導等の開始とともに情報発信に努めたので、それらの事例を紹介する。	14:30		
休憩 (14:45~15:00)						
森林保全	13	南信署におけるニホンジカ対策の取組について	南信森林管理署	平成19年度から実施している、職員によるくくり罠の捕獲が本年度で10年目を迎えたことから、これまでの捕獲状況の推移や、今後の取組に向けての課題などについて検証する。 また、効率的な捕獲や、被害防除対策について、これまでの取組内容や今後に向けての検討状況等について報告する。	15:00	
	14	南木曽支署におけるニホンジカ対策の取組について －地域と連携した捕獲の実施－	南木曽支署	ニホンジカ被害の未然防止のため、平成25年度より職員で構成するプロジェクトチームによる組織的な取組を実施してきたが、平成28年度からは罠い罠等新たな取組も実施しておりこれまでの成果と今年度の取組事例の報告。	15:15	
森林ふれあい	15	木曽谷支援の取組について	木曽森林ふれあい推進センター	御嶽山噴火により低迷している木曽谷への復興支援を目的として、「木曽川の下流域の中京圏との交流イベント」「木曽谷復興支援ツアー」「木曽地域の観光協会等と連携したバズルラリーの実施」により、観光客誘致の一助とするための取組を実施。	15:30	
森林技術	16	溶出日数の長い肥料を用いて育成したヒノキ・コンテナ苗の初期成長	岐阜県森林研究所 森林技術・支援センター	ヒノキ実生コンテナ苗の成長特性を把握するため、造林用普通苗と、溶出日数700日の緩効性肥料を用いて育成したコンテナ苗の植栽後2年間の成長を比較した。	15:45	
	17	育苗履歴の異なるヒノキ・コンテナ苗の植栽後の成長比較	岐阜県森林研究所 森林技術・支援センター	下刈期間短縮による低コスト再造林技術を開発するため、育苗条件の異なるヒノキ・コンテナ苗を林地へ植栽して、植栽3年目までの成長量を比較した。	16:00	
講評等 (16:15~)						

※“斜体文字”の課題については、民有林および学生の発表課題

第2日目（2月1日）

発表部門	番号	課題名	所属	発表概要	開始時刻
森林技術	18	国有林フィールドにおけるUAVの活用について	国土防災技術(株) 名古屋大学大学院 生命農学研究科 愛知森林管理 事務所	ドローンを用いて空中撮影を行い、対象斜面の三次元モデルを作成して、従来の測定結果と三次元モデルを用いることによって得られる結果の検証を行い、迅速かつ正確な斜面状況を把握することを研究した。	10:00
	19	地域にある自走式木材破砕機を活用した森林整備について	長野県 佐久地方事務所	平成28年に長野県で開催された第67回全国植樹祭の植樹会場の整備工事は、自走式木材破砕機を活用した工事であり、当該工事に必要であった機械経費の見積りと現場管理の留意点について報告する。	10:15
	20	豊かな森林を目指して ～スイスフォレスターに学ぶ、森林づくり～	岐阜県立 飛騨高山高等学校	スイスフォレスターから、スイスの森林施業方法とアドバイスから、実習林の森林機能の回復を目的とした取組と現状の報告。	10:30
	21	クラウドデータベースによる林業従事者向け労務管理システム	岐阜県立 森林文化アカデミー	拡大造林から60年ほど経過し、伐期適齢期を迎えた施業地に対して、今後、事業者間の横の連携が必要となるという仮説から、クラウドデータベースによる労務管理の必要性を提案する。	10:45
	22	黒心材の可能性を探る	岐阜県立 森林文化アカデミー	見た目が悪く、含水率が高いという理由から、大半が合板・パルプ材として買いたたかかれている黒心材の利用可能性について、乾燥方法と川下側の評価から検討する。	11:00
森林ふれあい	23	教えて学ぶ森林活用 ～下高井農林高校の取り組み～	長野県下高井 農林高等学校	森林への意識を持ってもらうことが森林の活用・保全につながると考え、未利用材を用いた箸づくり体験を行った。箸づくり指導を通じて自分たちも成長できた学習成果報告。	11:15
	24	全国の林業大学校学生の意識調査	長野県 林業大学校	全国の林業大学校11校を対象とし、教育内容や施設環境についてアンケート調査を実施し、これからの林業界に必要な人材を育てるためにはどうすれば良いか、学生は何を主眼に学ぶべきかについて考察した。その結果から、林業大学校のあるべき姿、改善すべき点を指摘した。	11:30
	25	小中高校生の森林・林業に関する意識調査	長野県 林業大学校	近年、統計では林業に従事する若年層が増加傾向にある。森林に目を向ける若者が増えてきたのではないかと考え、各世代は森林についてどのように考えているのか、木曾の小・中・高校生、兵庫県の高校生を対象にして、樹種、木造、森林の機能などに関してアンケート調査を実施して考察した。	11:45
休憩（12:00～13:00）					
講評・審査結果・表彰等（13:00～）					

※“斜体文字”の課題については、民有林および学生の発表課題